

1. 基本理念(案)

少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、高齢分野における医療と介護の需要の増加に伴う課題や、子ども分野における家族や地域の分断化の進行、家庭や学校環境を含めた問題の多様化等の課題が生じています。これらの課題を解決するため、住民自身が地域の課題を一緒になって考え、動きながら、現実的で切実なニーズに応じていくことや、既存の福祉的な活動の輪を広げていくことが必要です。

また、住民の健康意識については、子どもから大人まで健やかに暮らせるような基礎づくりが必要であり、食育の推進や母子保健や子育て支援の適切な実施、生活習慣病予防、介護予防等々の施策に加え、地域コミュニティの推進などが、今後ますます重要となってきます。

地域福祉とは「児童、高齢、障害」といった限られた人だけを対象とするわけではなく、地域に暮らすすべての人が支え合い、いきがいをもって生活していくためのものです。自身だけではなく、様々な個性、あり方をしている人同士が、お互いを認め合い、お互いの立場を尊重し、受け入れていくことが、地域における参画の推進や、人権の尊重につながっていきます。そのためには子どもの頃から、地域を支えたいという気持ちを育てていくことや、子どもたちに社会貢献を意識して、地域の中でどのような活動ができるのかを教えていくことも大切です。

私たちは、東村山市という自然環境に恵まれた都市の中で、人と交わること人とのつながりを大事にし、住民活動計画である地域福祉活動計画とも連携しながら、お互いに支え合っていく意識づくりが必要となります。これらの事から、本計画の策定にあたっては次のような地域社会像を基本理念とします。

**（例）認めあい つながりあい 健やかに
支えあうまち 東村山**

事務局より：基本理念（案）の作成にあたっては、これまでの議論及び前文をふまえて、次の考えによりを作成させていただきました。

地域福祉を推進していくためには、まずは「お互いが理解し、尊重する」つまり、認め合うことが必要になります。認め合ったうえで、お互いがつながり、そして健やか（心、体、社会）な暮らしにつながっていきます。それらを受けて、最終的に「みんなで支え合いながら東村山市という地域社会を作っていく」ことにつながるとして、基本理念を作成しました。

【参考】過去の基本理念

第3次 とともに認め合い、話し合い、支え合いながら
暮らすことができるまち 東村山

第4次 認め合い、つなぎあい、支えあうまち 東村山

【当時の議論抜粋】

キーワードの順序ですが、人の関係を考えた時に、理解しあい、認めあうことが自然な流れだと思いますので、最初に「認めあい」が来るのかと思います。また、「つな

ませんが、主体的な行動

として「

住民一

れは年寄

ましよう

かがやっ

ろうということ

え合うになるのではないかということです。

3 ページ目は
印刷しない

と思います。

認め合いましょうと、そ

い方もお互いに認め合

いくことについては、誰

をにかけていく主体にな

その結果、(最終的に)支